

サイカチ（皂莢）の由来

かつて区役所前の青梅街道際に皂莢の巨樹がありました。

その樹は、江戸時代に青梅街道の里程指標として植えられたと伝えられていたものです。おそらく一里塚というよりは半里塚的なものだったと考えられます。

こうした伝承が生まれたのは、その樹が街道の目印として良く知られ、かつ親しまれていたことを物語るものと思われまます。

当初植えられた皂莢は昭和 14 年に枯死、二代目も病気となり、現在の皂莢はこの由来を後世にに残すべく新たに植えられたものです。

皂莢の樹の説明板に書かれているものを転載